

聞思

寺報

MONSHI

第12号

2020年11月

発行



浄土真宗
本願寺派

田野山西敬寺

せいだど
責め
怒りが走り
苦が深まった
せいが
おかげに
転じたとき
世界が変わった

西敬寺掲示板に5月より掲示している法語になります。

2頁からの清胤 弘英先生のご法話とあわせてお味わい下さいませ。

聞思 第12号

目次

特別寄稿法話	清胤 弘英先生	2
西敬寺歳時記	(2020年 8月~11月)	4
連載		6
いまどきの終活の作法 ~大切なひとに負担をかけないために~ 第9回 終活を始めるときに知っておきたい 抑えておきたい3つのコト		
初参式のご紹介・復興支援報告		8

田野山西敬寺

検索

<https://www.tanozan-saikyoji.jp>



西敬寺のホームページから最新情報をご確認頂けます。

上記アドレスから是非ご覧下さい。(スマートフォンにてもお覧頂けます。)

今号の表紙に掲載した西敬寺掲示板の法語は、ご縁深き広島県正覚寺 清胤 弘英ご住職より四月に頂いたご法話から生まれました。是非、その意味を深めて頂ければ幸いです。

一、疫病と仏教

東大寺の大仏「奈良の大仏さま」を皆さんご存じですか？ なぜこのような大きな大仏が作られたのでしょうか？

約千三百年前に大仏造立を決断した聖武天皇の時代は、大雨、大地震や飢饉が続き、疫病（感染症）が流行しました。高熱を発し、死亡率が高く、治っても痕（あと）あばたを残す「天然痘」で、人類を最も苦しめたウイルスによる感染症です。当時の平城京にもまん延し、国政を担っていた藤原氏の四兄弟が全員病死するなど、朝廷は大混乱。日本の総人口（当時）の二十五〜三十%に当たる百万〜百五十万人が亡くなったというのです。相次ぐ国難に悩んだ聖武天皇が七四三年（天平十五年）、国家の安寧や疫病から人々が救われることを願って大仏の造立を命じたのが東大寺「奈良の大仏さま」です。

もちろんこれは、仏様に手を合わせ、祈ることでの心の安らぎを得る効果はあったでしょうが、本来仏教の教えは「因果の道理」を説く

ものです。祈っただけでは疫病はおさまりません。「因果の道理」とは、詳しくいうと「原因と縁と結果（＝因縁果）」を説く教えです。例えるならば、仏様に祈っただけで受験が合格することはありません。やはり合格に見合うだけの勉強をし、学力が必要です。そして様々な諸条件たる縁が必要です。

仏教は因縁果の道理の教えです。大仏建立は、今の浄土真宗の考えに当てはめれば仏教の因縁果の教えをしつかり伝えることにより人々を仕合せに導きたいという願いがあったのです。

二、現代のコロナウイルスと仏教の教え

それでは今、様々な方々が不安に思い過ぎていることを仏教の因縁果の道理から考えてみましょう。

「人々の不安」という結果は、何が原因でしょう？ 「コロナウイルス」が原因と考えがちですが、「コロナウイルス」は縁なのです。なぜかという、不安の大元の原因は、「もし病気になるたらどうしよう」「人にうつしたらどうしよう」「仕事が無くなりお金が無くなったらどうしよう」「人に何て言われるだろう」等々という畏れが不安の原因です。しかし、これらは、コロナウイルスの問題が起きなくても普段から私たちが持っている不安で、私た

ちの抱えている社会の在り方と自分自身の心の在り方が不安の原因なのです。

つまり、「コロナウイルス」を縁として、この原因となつていいる社会の在り方と自分自身の心の在り方を変えなければ、不安という結果は変わらないと仏教は教えてくれます。

具体的に言う、もし病気になったら、他人から非難や中傷、悪口を言われるかもしれません。だから不安になるのです。しかし、病気は、いつだれがなるかは、分かりません。だから、「病気になつても、ならなくてもあなたのことが大好きだよ」という心を持つこと。そういう社会になることが大切です。また、コロナウイルスによる縁で、食糧難になるかもしれません。買い占めする人もいるかもしれせん。そうなると思えない人はより一層不安になります。だから、もし食料を多く手に入れた人は、食料のない人に分けてあげること大切です。それが安心につながります。つまり、人と人の心をつながりがより一層身に染み渡る時代となつたのです。

三、親鸞聖人の時代

浄土真宗の教えを説いた親鸞聖人の時代は、ちよつと日照りが続くと飢饉が起きて餓死する人があふれ、疫病もあり、それに加え、戦乱

までであった時代です。だから沢山の人々が不安でした。そこに親鸞聖人は、阿弥陀仏という仏さまは、私たちの「いのちの全て」、若い時も、歳をとっても、健康な時も、病気の時も、善い時も、悪い時も、生きている間も、死んでから先も、私たちを慈しみ、支え、導こうとされた仏様で、そのお心に出あい「南無阿弥陀仏」と念仏することが大切だとおっしゃいました。クルーズ船に乗っておられた夫婦の旦那様が集中治療室でお亡くなりになる間際、奥様がガラス越しに「ありがとうございます」と声をかけたのを看護師さんから伝えられた旦那様は、一筋の涙を流されたというお話を聞きました。長年夫婦として若い時も、歳をとっても、健康な時も、病気の時も、善い時も、悪い時もお互いに愛し、支え続けられたご夫婦。奥様からの愛情ある「ありがとう」の言葉が届けられたご主人は、ある意味、病の中であっても仕合せであったと思います。

止め念仏する時、有難さや喜び、そして安心が味わえるでしょう。この親鸞聖人の教えを沢山の方々が聞き、「南無阿弥陀仏」を心の支えとし、まもり伝えられて現代にいたっているのです。

四、今の出遇いと時間を大切に

もし、私たちが感染症にかかり亡くなった時には、普通のお葬式があげられず、最期のお別れもままならないのです。だからこそ、今のうちに家族、夫婦、兄弟、親子、友人、先生、生徒様々な方との出遇いの不思議さを思い、感謝の心と言葉を身近な人にかけておきましょう。「いつもありがとうございます。愛しているよ」と。また、お医者さん、看護師さん、医療関係者の方々やバスの運転手さん、店舗やレジで沢山の人と接するお仕事の方々、社会を支える方々、ある意味命がけでお仕事をなさっています。感謝の気持ちも忘れてはなりませんね。そして時間を大切に使いましょう。私も今、仕事が激減しました。しかし、やることは沢山あります。執筆活動、ご縁ある方々へお経を読み、ご法話を録音したCDを制作し、郵送すること。それからお寺や、お部屋や心のお掃除などです。なんと先日掃除をしていると昔のラブレターが出てきました。もちろん坊守と

のです。うれし、恥ずかしです。二人で読みあひ十年分くらい笑いました。笑いは免疫力を高めます。情報を得ることは大切ですが、テレビばかり見て不安になり免疫力が下がるのはいけません。この時期こそ自分にできることはないか、自分の心のあり様はどうか、どうか、時間を有効に使ってください。

五、コロナを縁に

「コロナのせいで」と腹を立て、悔しい思いや悲しい思いもします。しかし、コロナを縁に社会の有り様を見つめなおし、今まで当たり前だったことを変革したり改善したり、自分の心を見つめなおし次にやってくる未来の社会や私たちの生活が「コロナのおかげで」となることを望みます。

清胤弘英・祐子先生

お二人のご法話を電話でご聴聞

正覚寺テレホン法話

0826-23-0111

(毎月1・11・21日更新)

24時間いつでもご聴聞頂けます

「中国新聞情報センター」主催のオンライン仏教講座を1月に祐子先生が、2月に弘英先生がご担当されます。

詳細は西敬寺サイトにてご確認頂けます。ネットでお会いしましょう！！

歳時記 (8月~11月)

お盆(納骨壇) 法要厳修

八月十日(山の日)ご講師に長岡市常
禅寺ご住職 旭 勲師をお招きしお勤め
させて頂きました。

コロナ禍の中、感染防止対策のために
限定的なご案内となつてしまい心苦し
い限りでしたが、ご講師からの「いつで
もどこでも」と題して下さったご法話が
より一層身に染み込んでまいりました。
今後、お盆法要は毎年「山の日」を開
催日とさせて頂く予定です。

来年は八月十一日(水)となります。
多くの皆さまとご聴聞させて頂ければ
幸いです。



3密を避けての開催

本堂は24時間連続自動換気が作動しています。

非戦の鐘

平和を
うたう集い

8月15日



8月15日(終戦の日)『全戦没者追悼法要』
そして『非戦の鐘』が開催されました。

追悼と慰霊の違い

(住職「追悼法要法話」より抜粋)

「追悼」とは、過去への反省と将来への
責任観を含むものと聞かせて頂きま
す。つまり戦争の惨禍を「おもいおこし
て、いたみ、かなしむ」ことであり、そ
れは戦没者一人ひとりの心に想いをほ
せ、そのいのちの意味をたずねること
であり、過去への反省に立って、未来へ
の責任を今、背負おう自覚を持ち戦争

によって犠牲になった被害者を一人でも
なにおざりにし、過去の戦争反対者を
犯罪者扱いにしたままにはさせないこ
とであると思います。

片や「慰霊」とは、自分のこれからの
生き方が問われることはありません。
目は死者のみに向いているのであり。
自分の責任を問うことがないので。
死者を慰めることを通して、自らを許
し、自らを慰めていくのです。

反省は、自分たちを加害者と認めると
ころから始まります。そこから、過去の
事として水に流すのでなく、現在と未
来に対する責任を見出して行かなけれ
ばならないと思います。

被害者でしかないとしたら、反省の
余地はなく、不運を嘆き、慰め合うよ
り他はない。「慰霊」ということは、加
害者としての歴史的事実を認めようと
しない思想です。

『日本国憲法』前文の「政府の行為に
よって再び戦争の惨禍が起こることの
ないようになすことを決意し、ここに
主権が国民に存することを宣言し、こ
の憲法を確定する」という言葉は、ま
さしく日本が行った先の大戦による全
ての死没者への「追悼文」であると私は
受けとめています。

田 野 山 西 敬 寺

実践活動へ発展させたいと思います。今後も継続的に幹事の皆様と具体的な

グループワーク(話し合いの手がかり)
【問い 1】
あなたに居場所がありますか？
自分を傷つける関係性はありますか？

居場所が無い

安心できるつながりがない

グループワーク(話し合いの手がかり)
【問い 2】
「地域にこんな居場所
があったらいいな」



講演に引き続き、住職の用意したスライドの「問い」に関してマスクを着用してのグループワーク(話し合い)。

九月十七日、西敬寺の地元、朝陽地区住民自治協議会が地域で安心して、心地よく暮らせる「つながり」を目指して設立した「ささえ愛あさひ」の拡大幹事会が開催されました。今回は特に生活支援コーディネーターの方々からのご依頼で「福祉共育」をテーマに住職が講演させて頂きました。

ささえ愛あさひ
拡大幹事会開催

再開しました！ 終/宗活公開講座 in 西敬寺

4月7日に発令された「緊急事態宣言」を受け延期しておりました公開講座が9月から**毎月第2日曜日**に再開されております。当面は、感染症防止対策の為、**開催日前日までのメール・もしくはお電話にての事前申込み制**とさせていただきます。

西敬寺の門信徒(檀家)以外の方々のご参加も大歓迎です！新本堂のご参拝ご見学も兼ねて、ご家族やご友人お誘いの上、是非ご参加下さいませ。今後の予定は以下の表のようになっております。



11月8日には第8回が開催されました。

第9回 12月13日	法話「独生独死独去独来」 ～「ひとり」の仏教的味わい～ 講演「お一人様の終活でやるべき7つのコト」 1月・2月は冬季休講とさせていただきます。
第10回 3月14日	法話「願われているわたし」 講演「想いが届く遺言書の書き方」 *筆記用具をご持参下さい。
第11回 4月11日	法話「諸行無常」 ～世は移ろい変わり続ける～ 講演「こんなに変わった相続法」

*終了後 **17:00 まで自由拝観・個別相談対応** (個別相談に関しましては、事前に電話 026-243-5570 もしくは、メール jikyo47@gmail.com にてご予約をお願いします。)

*作法・お勤め体験がございませ。お数珠をお持ちの方はご持参下さい。お経本は貸し出しがございませ。**参加費は無料です！**

- ▶会場 西敬寺本堂
長野市南堀336
- ▶開催時間
13:30～15:00
(受付開始 13:00 より)
- ▶タイムテーブル
13:30 作法・お勤め体験
13:45 法話
14:05 休憩
14:20 講演
14:50 質問タイム
15:00 終了

会場・お時間は各回共通となります。

いまどきの終活の作法～大切なひとに負担をかけないために～

第9回 終活を始めるときに知っておきたい

押さえておきたい3つのコト

皆さんこんにちは。行政書士の伊藤安芸です。終活を考える、あるいは始めようしている方からよく受ける質問に「何から手をつけていいのかわかりません」があります。今回は3つの方向から考えるべきポイントを見ていきたいと思います。

はじめにー「死」とはなにか

本題に入る前に、終活や相続対策における「死」について私の考えをお話ししたいと思います。

「死」とは現代医学的においては心臓の停止・自発呼吸の停止・瞳孔の散大がその判定要件ですが、大昔の人にとっては「魂が肉体から離れること」を意味していました。従って本当に死んだのかどうか確かめるために時間をかけたり、弔いの儀式を行ったり、葬儀や供養に対するさまざまな様式が生まれてきたと考えます。では、終活や相続を考える上で



の「死」とはなんでしょう。この問いに私は「自分がそこにいること」と答えています。それはつまり、遺産の分け方で子供たちが争ったり、自分が生前イメージしていたお葬式や供養とは違ったやり方で進んでしまったりしたときに、自分がそこにいれば諫めたり、仲介したり、指示したりできるのですが、そういった関わりを持つことができないことをしっかりと理解（再認識）する必要があるということです。自分がそこにいることを理解することで、将来何が問題になるのか、今何をしておくべきなのかが見えてきますので、適した対策をしていけばよいと考えます。

押さえるべき3つのコトとは

終活で押さえるべき3つのコトは、1：ヒト、2：モノ・カネ、3：供養です。3つの内容が何を指すのか、考え方やトラブルの原因になりやすいポイントを見ていくことで、どこから手をつけるべきか見えてきます。

次ページでそれぞれのポイントについて見ていきましょう。

1：ヒト（家族・相続人・友人等）

相続人は誰なのかをきちんと把握し、その上で誰に何を託すのか考えましょう。昔のような長男（長子）が中心となる（なってくれる）と言った思い込みはトラブルのもとです。現代は平等意識がきちんと浸透していますので、兄弟での不公平感はその配偶者など相続人以外の人間をも巻き込み問題を複雑化させます。また、親族がいない、またいても遠距離という場合も託せる人を見つけておく必要があります。

2：モノ・カネ（財産・医療費）

財産整理、特に銀行口座の整理は必須です。特に最近はネット銀行だけでなく一般的な銀行でも通帳を作らない方向です。通帳がないとどの金融機関にお金があるか分からず調べる手間と負担が遺族にかかります。そのほか、不動産の一覧や株式、ゴルフ会員権などはもちろんですが、借金や知人への貸付などもメモを残すことが肝要です。また、医療費（介護費用）に関してどのように手当するのかも考えておきましょう。

3：供養（お葬式・お墓）

自身がどのようなお葬式や今後の供養を望むのか明確に残しておきましょう。「適当に頼む」や「任せる」はもってのほかです。「簡単に・質素に」という言葉だけでは何が簡素で質素なのか伝わりません。加えて誰に見送ってほしいのかと言ったことも伝えておきましょう。家族だけでなく、所属寺にも伝えておくことで誤解や意識のズレを防ぐことができます。

まとめ

自分の意思や希望を伝えたりトラブルを未然に防ぐために、遺言書やエンディングノート、家族信託や死後事務委任などの制度の活用が効果的です。先ずはご自身にとっての心配なことを書き出し、優先順位をつけてそれぞれに最も効果的な対策を打っていきましょう。しかしどれもご自身の体不自由になったり判断能力が衰えてからでは遅いので、気力や体力があって「まだ早い」と思える今がベストタイミングなのです。

ここまでお読みいただきありがとうございました。

—ご意見・ご要望・ご質問などお気軽にお寄せ願います—
伊藤 安芸：行政書士伊藤安芸事務所代表
（行政書士・家族信託専門士・葬祭カウンセラー）
TEL026-219-6373 メール y-itoh@office-angei.com

ご慶事も仏式で「初参式」のご紹介

初参式とは？

古来、生まれたばかりの赤ちゃんを土地の氏神様に参拝させて、新しい氏子として祝福をうける「お宮参り」が現在では、赤ちゃんが無事に産まれたことを感謝し、長寿と健康を祈る行事として行われています。（門前町長野では善光寺様に参る方々が非常に多いようです。）

実は、新本堂竣工以来、西敬寺さんで「お宮参り」を行えますか？ とのお問い合わせが増えております。

当院は浄土真宗ですので『初参式（しよさんしき）』という形でお応えしています。すなわち、お子さまが仏の子として育ち、これからの人生を仏さまのお慈悲に包まれて歩んで行けるよう、仏さまにご奉告する式です。お子さまが初めてお寺にお参りするということは、同時に親にとっても、親として生きる出発点となり、子によって導かれる尊い仏縁でもあります。恵まれた「いのち」を仏さまの前で、ご家族、またご縁のある方々そろってお祝いします。

また、七五三記念参拝も、人生の節目として西敬寺にて仏さまに成長の慶びをご奉告しお祝いします。



左の写真は、十一月八日にご参拝下さいました新井 雅雄様ご家族になります。（初参式が「広まりますように」と、ご掲載をご快諾下さいました。）

式当日は、開始前のご準備を入れて約一時間となります。また、大広間をご利用頂き祝膳のご用意も出来ます。お申し込みは随時承っておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。



ご参拝の記念に上記のお品(記念念珠・仏教スタイ等)と、住職が心を込めて書いた法語の色紙をご用意しております。

当日、初参式の方は足形・七五三の方は手形を押して頂いております。

復興支援報告

令和元年東日本台風によって被災された二十二壇のお仏壇をお預かりして一年が過ぎました。

搬出から安置・洗浄と長期に渡りお世話になっている明石佛壇店の明石 洋一社長が中心となって下さり、被災されたご門徒方のご希望とお仏壇の状況を照らし合わせながら焦らず慎重に修復プロジェクトを段階的に進めて頂いております。

十月六日には、ご安置場所の飯山市の旧城南中学校校舎に見学をご希望された方々を坊守と共にご案内し、明石社長より丁寧な状況説明と今後のご提案を頂きました。今後も順次、具体的にご相談を重ねていきます。

このように落ち着いて修復に関して検討させて頂けますのも昨年、泥まみれになり、懸命にお仏壇を救出して下さいました西敬寺有縁のボランティアの皆様、新本堂落慶法要



の際にご支援金をお預け下さった皆様、更には全国各地のご寺院様のお陰です。そのお力添えを忘れる事なく務めて参りたいと思っております。